



血黒豚の も継いで

脂身の甘みと、きめ細かい肉質。
「うまみこい豚」のおいしさの秘密は
黒豚を50%以上かけ合わせているから。
宮城県で養豚を営む、仙台黒豚会を訪ねました。

生まれてまもない子豚たち。元気いっぱい、これからぐんぐん育ちます。

小さな養豚場が育む命、家族の絆

米作りも養豚の循環

宮城県登米市。市の中心を北上川が流れ、見渡す限り田園風景が広がります。ここでは、豊かな水環境の恵みを受け、古くから米作りが盛んに行われてきました。米に並んで畜産も盛んで、東北有数の家畜飼養頭数を誇る大産地です。仙台牛が有名ですが、養豚も負けてはいません。

ひと昔前まで、この辺りの米農家では、豚も飼育するのが一般的だったそうです。残飯を餌にして、堆肥は田んぼに還元する。そんな小さな循環がそれぞれの家庭の中にあった時代です。

もともと養豚が盛んだった宮城県。昭和42年の資料によれば、飼養戸数

は37000戸で、飼養頭数が18万平均すれば5頭ほどとなり、多くの農家が小規模で飼育していました。そこから令和3年には109戸まで飼養戸数が減りました。それでも飼養頭数は約20万あるので、大規模に効率よく大量生産する養豚場が増えたことがわかります。

30年一緒にやってきました

1980年代、大地を守る会では、畜産事業部から独立した(株)大地牧場をグループ会社として持っていました。その理念に共感してくれる生産者として出会った仙台黒豚会とは、30年もの付き合い。

1992年に9軒の養豚・繁殖農家で始まった同会ですが、今では久



1 30年前に9軒の農家で始まった仙台黒豚会も今では2軒に。右から久保勇さん、息子の至勇さん、伊藤富美男さん。
2 飼料は非遺伝子組み換えのもの。トウモロコシ、麦、大豆カスなどが使われる。成長段階に合わせて配合が変わる。
3 家業を継ぐと決めてこの世界に入り、10年が経った。
4 豚舎で豚の世話をする至勇さん。「養豚は、とにかく観察が大事」と父の勇さん。



保勇さん、伊藤富美美さんの2軒だけとなってしまいました。

95年から同会の会長を務めてきた小原文夫さんが2020年末に亡くなり、現在は久保さんの息子の至勇さん(33)が会の代表を務めます。

久保さん親子が管理する豚舎を訪ねました。豚舎は登米市近辺に4カ所あり、それぞれに親豚舎、分娩離乳舎、肥育舎が並んでいます。分娩離乳舎にはまだ生まれたばかりの子豚たちが母豚と一緒に過ごしていました。

母親の飼養頭数は全部で80頭とそれほど多くないので、しっかりと目行き届きます。

飼料となるトウモロコシ、麦、大豆カスなどの穀物は非遺伝子組み換えのもの。飼料の高騰が続いて不安を抱えながらも、効率よりも味と安心を重視して豚たちを育てています。

効率優先に なっている 養豚業界

現在日本で流通している豚の多くは、LWDと呼ばれる三元豚の一種。ランドレース(L)と大ヨークシャー(W)と呼ばれる品種を掛け合わせたメス(LW)は、繁殖能力が高く、たくさん子どもを産む品種です。そこに、肉質に優れたデュロック(D)というオスを交配させます。生まれた子ども(LWD)は、発育がよく肥育日数は180日後と効率が良いのです。

「(大量生産型の養豚は)一頭の親から何キロの肉を取れるか、という考えが方なんです」と勇さんが説明してくれます。さらに生産性を追求した

「ハイブリッド豚」と呼ばれる品種の開発も進んでいると言います。通常、母豚には左右7個ずつ14のおっぱいがありますが、ハイブリッド豚は胴が長く、16、18のおっぱいがあるのだそう。

仙台黒豚会の養豚は、こういった効率優先の養豚とは一線を画しています。

じっくり 時間をかけて

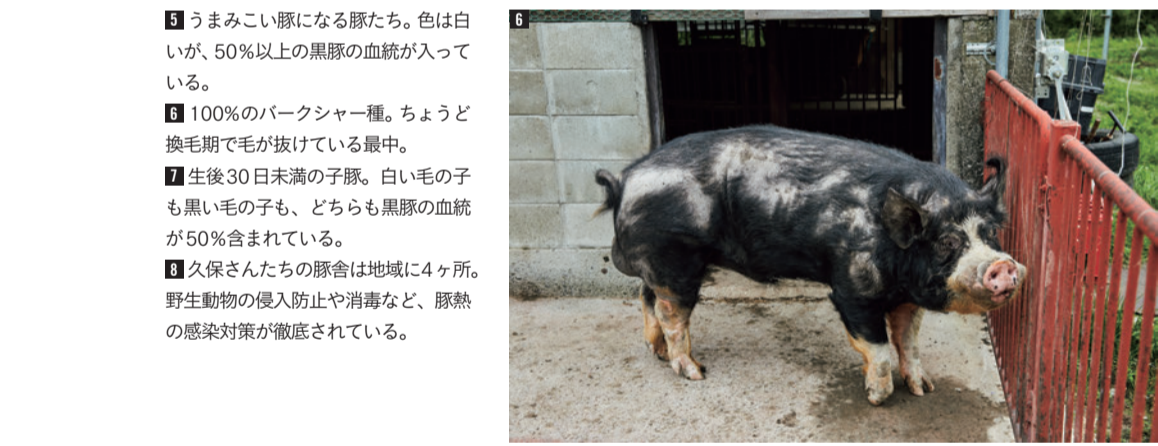
仙台黒豚会の「大地うまみこい豚」は、パークシャー(B)と呼ばれる黒豚の血統が50%以上入っています。LWのメスにBのオスを掛け合わせると、LWBという子豚が生まれます。黒豚とのいわゆる「ハーフ」の子たちですが、毛の色はほとんどが白になるのだそう。

「味に旨みを出すのは黒豚なんです。脂が甘くてしつこくないし、肉質もきめ細かい」(勇さん)

味の良さには定評がある一方で、パークシャーは産子数が少なく、成長スピードも早くありません。肥育日数は210日ほどと、LWDと比べれば肉になるまでに1ヶ月長くなるのです。純粋な黒豚(BB)では、手間がかかりすぎて値段が高くなってしまいが、普通の食卓向きではありません。味と手に取りやすい価格の両方をバランスよく実現したのが、大地うまみこい豚なのです。

「パークシャーのお母さんは子煩悩なんです。お母さんに見えるところで子を鳴かせたりすると、怒って暴れるほどです」
そうやって子豚たちを眺めながら目を細める至勇さん。次男で、元々は違う仕事に就こうと考えていた至勇さんが養豚の世界に入ったのは、東日本大震災の後。地震が起きた直後は、電気もなく、水道も1週間断水す

るような状態で過ごしたと言います。「ダンピングで県外まで食料を買いに行ったりしてね。ああいう思いは二度としたくない。でも家族の輪が強くなったところはあってもいいな(勇さん)」



5

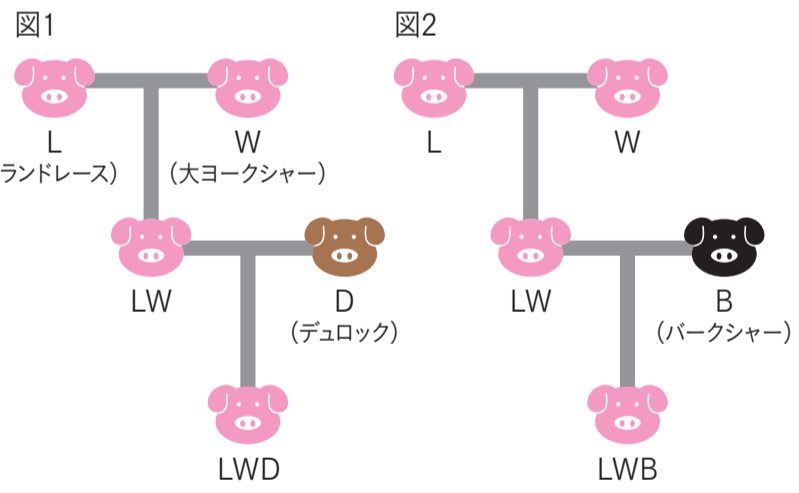
- 5 うまみこい豚になる豚たち。色は白いが、50%以上の黒豚の血統が入っている。
- 6 100%のパークシャー種。ちょうど換毛期で毛が抜けている最中。
- 7 生後30日未満の子豚。白い毛の子も黒い毛の子も、どちらも黒豚の血統が50%含まれている。
- 8 久保さんたちの豚舎は地域に4ヶ所。野生動物の侵入防止や消毒など、豚熱の感染対策が徹底されている。

C O L U M N

大地うまみこい豚はこうしてできる

日本で流通している三元豚の多くが、LWD(図1)と呼ばれる種です。一方の「大地うまみこい豚」はLWB(図2)。ランドレースと大ヨークシャーを掛け合わせたLWというお母さん豚と一緒にですが、お父さん豚がデュロック

(D)かパークシャー(B)か、という違いです。LWBの子たちはほぼ白い毛色で生まれてきます。理科で習った「メンデルの法則」、思い出してみてください。白い毛色は顕性、黒い毛色が潜性の遺伝子なんですね。



お客さまの要望に応え実現した新商品です!
大地うまみこい豚バラ極うすスライス 1.9mm厚
1287 産 1.3
200g
728円(税込786円)
Ⓞ着日含め3日保証
Ⓞ仙台黒豚会(宮城県登米市他)



うまみこい豚のバラ肉を
食べやすく&使いやすく!
徳用 冷凍 大地うまみこい豚バラひとくちカット・バラ凍結(炒め物用)
1290 凍 3.2
500g/サイズ:約3mm厚
1817円(税込1962円)
Ⓞ着日含め90日保証
Ⓞ仙台黒豚会(宮城県登米市他)



フィリピン台風被災産地を支援「DAFDAF基金」

支援はバナナの生産復興に

昨年12月、フィリピンの中部を通過した台風22号は、バラゴンバナナの主産地であるネグロス島を直撃し、90%以上のバナナが倒されました。ボホール島、ミンダナオ島北部でもバラゴンバナナがそれぞれ1万本以上倒されています。被害は住居、サトウキビ、水田、家畜にも及びました。生存に関わる緊急支援は特定非営利活動法人APLAが行い、長期

的な支援はバナナ出荷元のATJを通して行うこととなりました。DAFDAF基金からは予備金の全額194,670円を拠出。さらに会員の皆さんにバナナ生産者支援を呼びかけ、寄せられた135,500円を6月1日に送金しました。現地で行われた支援は主に生産者の生活再建、バナナ生産復興ですが、私たちの支援金はバナナ生産復興に充てられました。

鶏糞でバナナの成長を助ける

バナナは収穫を終えると切り倒され、根元の子株、孫株が次世代のバナナを実らせますが、今回の台風でその8割が根こそぎ倒れてしまったため、新しいバナナの苗木を植えて、成長を早めるための鶏糞を生産者に配布しました。2月より配布が始められ、7月初めまでにネグロス島東州で190,705kg(計画比約95%)、ネグロス島西州で220,961kg(計画比

約70%)が配布されました。会員の皆さんから寄せられた支援金は、このバナナ生産復興プロジェクトに使用されています。多くの産地では施肥によって予想以上のスピードでバナナが回復していますが、まだまだ追肥が必要な状況です。年末までには例年の収穫量までに復旧する予定です。DAFDAF基金は災害や有機農業など海外の生産者・産地を支援します。



1 生産者の一人、ジラソルさん。鶏糞は有効とのこと。
2 急斜面で大変なところもありますが、バナナの苗木の近くに鶏糞を撒いていきます。
3 筍のような形をしたこちらが、バラゴンバナナの苗木。
4 倒されなかったバナナにも鶏糞を撒いて回復させます。

災害や有機農業など
海外の生産者・産地を支援

DAFDAF基金
4801 1口 500円
※「DAFDAF基金」への募金です。

医療従事者支援からひとり親家庭などの支援へ

「WeSupport」のプラットフォームを活用して支援

コロナ禍の医療現場で命を守り続ける医療従事者に食品を支援するため、2020年4月に始まった「WeSupport」。医療従事者のニーズと支援を希望する企業・団体からの食品をマッチングさせ、食品をお届けするプラットフォームです。2021年11月に支援が終了し、支援した医療従事者は76万5,875人、支援した食品は9億5,467万6,607円相当、食品を提供した企業・団体は127社となりました。このプラットフォームを活かし、2021年12月から、コロナ禍で経済環境が大きく変化する中で影響を受けている、ひとり親家庭を中心とした子どものいる困窮世帯への支援を始めました。詳細は下記へ。

医療従事者支援の報告、ひとり親家庭などの支援の詳細はこちら▶▶▶



1 はまゆう会新王子病院の皆さん。
2 さまざまな食品をお渡ししています。

ゆあさ農園・梅の雹被害の支援報告

今年6月2・3日に降った雹の影響で、ゆあさ農園(群馬県高崎市)の梅が大きな被害を受けました。今年の梅はお届けを断念せざるを得ませんでした。そのような中、会員の皆さんからゆあさ農園へたくさんの励ましのメッセージをいただきました。また、大地を守る会

は皆さんからご寄付いただいている「大地を守る第一次産業支援基金」から、支援金20万円をゆあさ農園にお届けしました。温かいご協力を誠にありがとうございます。ゆあさ農園からのメッセージなど報告の詳細は、お買い物サイトのお知らせなどをご覧ください。



1 大半の梅が地面に落ち、残った梅も傷だらけになりました。
2 6月2日は観測史上最大の降雹があり、こんなに大きな雹が降りました。

『NEWS大地を守る』はWEBでもご覧いただけます。イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。

大地を守る会

検索



●「NEWS大地を守る」に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。

お問い合わせ

オイシックス・ラ・大地 ソーシャルコミュニケーション部
TEL●050-5306-8513
E-mail●ord_social@oisixradaichi.co.jp

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhei.daichi-m.co.jp/Information/8>

※イベントについてWEBへのアクセスが不可能な場合は、ソーシャルコミュニケーション部へお電話いただきご確認・お申込みください。



発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
TEL 050-5306-8513